



渋谷区立 代々木 中学校

令和8年1月8日発行

学校だより

<https://shibuya.schoolweb.ne.jp/1320121>



各新聞社の元日の社説から「2026年の学校教育」を展望する

校長 駒崎彰一

年末から3年生の高校入試に向けた面接練習を実施しています。この練習の中で、毎年、全員に新聞についての質問をしています。今年も8割を超える生徒から「新聞は読まない、ニュースはネットやテレビで…」という回答がありました。一般社団法人「日本新聞協会」の新聞発行部数に関する統計によると、2025年の1世帯あたり購読部数は、数値上半分以上の世帯で新聞を購読していないこととなる「0.5」を2023年に切ってからも年々減り続け「0.42」、急激な減少を続けています。インターネットがスマホによって個人にまで普及した現在では「情報はタダ（0円）」で入手できるようになり、確実に「新聞離れ」が今後も進行していくことが時代の流れとして考えられます。

インターネット、特にSNSには、縦横無尽な情報が溢れていますが、「ノイズ過多」とあります。このような状況下では、特定の情報だけが大きく見え、別の情報が見えなくなる「プリズム効果」があり、自分の考えに近いものばかりにフォーカスがあたり、逆に関心がない分野については「視野」が狭くなってしまう傾向があるそうです。また、最近では過去の閲覧歴や検索歴に合わせて、画面に表示される内容が変わってくる仕組み（レコメンド機能）が充実しており、入手する情報が「偏る」危険性が高いと言われています。

このように捉えると、インターネット上の情報の選別には、情報を極める知識とスキルが問われるため、インターネットによる情報収集は「上級者のメディア」であると考えることができます。その点、新聞は世の中を知るために「基本ツール」であると言われています。一面から順にめくつければ、政治、経済、国際情勢、文化やスポーツ、国内・地域情報と世の中の動き全体を短時間で俯瞰できるつくりになっています。この「一覧性」は新聞の最大のメリットです。また、単にニュースを配信する「NEWS PAPER」としての「事実を知る」機能だけではなく、社説やコラムを通して様々な「見方・考え方」を知る「OPINION PAPER」としての機能があります。（このため新聞は複数紙読むと良いと言われています。）このように捉えると「若者」は、インターネットより新聞を利用して「情報収集」する力を鍛える必要があるのではないでしょうか。

15年前に上司（当時K区教育長）から、新聞には「様々な課題を乗り越えるヒントがある」と読むことを勧められるとともに、特に元日の五大全国紙の「社説」について、「深読み」することを勧められ、それ以来、年始の恒例の取組としています。（毎年、五大全国紙：読売・朝日・毎日・日本経済・産経に加え、東京新聞を深読みしています。）

「社説」は、政治・経済・社会などの時事問題について、各新聞社の主張や考えを各社の責任において掲載するもので、日本の「現時点」の「見方・考え方」をタイムリーに捉えるものです。新年元日、各新聞社の「社説」を深読みすることで、2026年の「学校教育」について考えていきたいと思います。

各紙の年頭の「社説」の見出しを捉えることで、日本（世界）の現時点の状況を捉えることができると言われています。2026年の各紙社説の見出しは以下の通りです。

- 混迷を好機にする行動の1年に（日本経済）
- 知力、体力、発信力を高めたい 世界秩序の受益者から形成者に（読売）
- つなぐ”26 退潮する民主主義「分断の罠」に陥らぬよう（朝日）
- 海図なき世界「ポスト真実」超えて 未来を描き社会を変える（毎日）
- 「台湾有事の前年」にしないために（産経）
- 年のはじめに考える「怒」を「恕」に変える（東京）



日本経済新聞では、未知なる年への希望と不安が交錯する2026年が明けた。戦後80年の間に確立したルールや枠組みが至るところでほころび、世界も日本も新たな秩序を手探りする「海図なき時代」を迎えた。激しい変化に立ちすくむのではなく、混迷を好機ととらえて将来への展望を開く攻めの変革を進めたい。26年をしなやかな発想と行動の起点にすることが大切だ。と時代を捉え、秩序崩壊の悪影響に気づかぬまま、人類は取り返しのつかない誤った

道を進み始めたのではないか。そんな強い危機感を抱く。だからこそ、26年はピンチをチャンスに変える起点にしなければならない。厳しい現実を直視し、将来世代に持続的な社会や経済を引き継ぐ答えを見いだすことが急務だ。新たな秩序を作り出す柔軟な知恵と努力が求められる。として、不確実性を思考停止の言い訳にしてはならない。悲観論でなく「警戒的な楽観主義」のもとで改革に挑む1年にしたい。としている。「警戒的な楽観主義のもとでの改革」2026年のキーワードになると感じます。とにかくやってみること「やっちゃえ！代々木」が・・・ますます必要になるのではないでしょうか。

読売新聞では、今年は、世界の平和と安定を維持するため、新しい秩序の形成に向けて国際世論作りを主導する出発点としなければならない。それには、まず知力（構想力）が必要である。それを裏付ける体力（経済力・技術力）、そして発信力も問われることになろう。と冒頭にまとめ「知力、体力、発信力を高め、世界秩序の受益者から形成者に」と主張しています。実業家の松下幸之助は「民主主義国家においては、国民はその程度に応じた政府しかもちえない」という言葉を残している。（中略）選挙戦で特定の候補者を攻撃する意図から、生成AIで巧妙に作られた偽動画や偽画像も少なくない。日本でも外国勢力の選挙介入の疑いが指摘されている。だが、SNSの規制強化に向けた与野党の議論は進んでいない。むしろ政治家側が選挙での活用を競い合っている。実効性のある対策を急ぐべきではないか。根拠不明のSNSの投稿に踊らされないよう、国民一人一人がリテラシーを高めることも欠かせない。公共の言論空間を守ろうとする責任を自覚せねばならない。としています。世界のDXの波を的確に捉える必要があると考えます。さらに、18世紀フランスの啓蒙思想家であるヴォルテールは「哲学書簡」で、「己の欲せざるところを他人に施すなれ」という普遍的原理を強調している。傷付けられる側の立場に立つことの大切さ、自分がしてほしくないことは他者にもしてはいけないという、当たり前の道徳観を改めて思い起こしたい。とまとめています。これからもこれまでと同様に「当たり前の道徳観」徹底していく必要があると再認識しました。

朝日新聞では、世界における独裁的国家の数91が、民主的国家の数88を2002年以来初めて上回った。スウェーデンの独立調査機関「V-Dem」は25年の報告書で「民主主義の後退がどれほど深刻化しているかを示すものだ」と警告した。（中略）民主主義は、試練にさらされている。グローバル化の恩恵が市民に行き渡らず、富の偏在を生んだ。「取り残された」と感じる人々の、既存政治や社会への不満や憎悪がSNS空間で増幅され、分断が広がる。と冒頭でまとめている。その中で、民主主義の強みを市民が個人として尊重され、その自由と平等を根底に置いていることだ。熟議に時間はかかる政治システムだが、「誤りに陥っても、それを改めることができる」修正力を与える。としています。民主主義は、過去試練にさらされても復元力を見せてきた。意見や立場は異なっても互いを尊重し、対話を通じて妥協点とつながりを見いだしていく。政治も市民もこの理念と強みを見つめ直し、分断の罠に陥らぬようにしたい。とまとめています。意見や立場は異なっても互いを尊重し、対話を通じて妥協点とつながりを見いだしていく時間のかかる「熟議」を大切にしていく必要があります。

毎日新聞では、20世紀型の市場経済は短期的な最大化に走り、公害や気候変動などの問題を引き起こした。代議制民主主義は次世代の人々の利益を反映しにくい。人工知能（AI）がもたらすリスク、社会保障や財政の持続性、食料確保といった未来に影響を及ぼす課題に適切な解を見いだせていない。システムに問題があるのなら、改善すべきだ。社会変革の手段として「フューチャーデザイン」と呼ばれる取組が、行政機関や企業、大学などで広がっている。数十年後に生きる「将来人」の視点に立って未来のあるべき姿を描き、今求められることを考える。としています。目前の問題にとらわれて個人の利害に固執するばかりでは、意見を異にする側との対立を深める。将来に責任を持った判断もできない。議論を通して理想的な未来を描く過程では、社会的な視野がおのずから備わるという。（中略）たとえ立場は違っても、同時代に生きる人々の問題意識や悩みを共有し、それを将来世代にも「拡張」する。こうした試みこそが、分断を修復し、社会の持続性を保つ力になるはずだ。平和で豊かな社会を築く「海図」として構築された秩序が揺らいでいる。漂流する世界で、新たな道しるべを探したい。とまとめています。「フューチャーデザイン」未来に影響を及ぼす課題に適切な解を見いだすという事、学校教育においても喫緊の課題となります。平和で豊かな社会を築く「海図」を学校教育からもデザインしていきたいと思います

産経新聞では、今月下旬に日本からパンダがいなくなるのは象徴的である。（中略）日中友好は終わるということだ。あらゆる分野で対中関係の仕組みの大幅な見直しが求められる。脅威を見据え、平和と安全を守る方策を講じる年にしたい。とまとめています。同じ地球に住む人類、なんとか友好関係を築けないものか・・・昨年11月の本校で実施した10ヶ国から参加したスポーツダーツ大会を思い出しました。

東京新聞では、「恕（じょ）」は「思いやり」や「ゆるす」の意として、今日から始まる新しい一年が、各地の戦火がやみ、さまざまな分断が融和へと向かう年になってくれぬものかと、そう願わざにはいられません。一人一人が、ほんの少し冷静になって「怒」を「恕」に変える。すべては、そこから始まるのかもしれません。とまとめています。対話（Communication）と協調（Collaboration）を「恕」の精神で広げていく必要があります。

鎌倉校外学習（2年生）

主体的に計画・実施したグループワーク型鎌倉校外学習。全グループ計画を遂行しました。



苗木移植校外学習（2年生）

イオン環境財団・千葉大学院園芸学研究院とのコラボ企画。千葉君津イオンの森で苗木移植を体験しました。



音楽鑑賞教室（2年生）

区内8校の中学校2年生が東京藝術大学ウインドオーケストラの演奏を鑑賞。指揮者体験では本校生徒の大活躍！ 2年生は校外学習3連発でした。



探究フェス2025

渋谷区教育委員会主催の探究学習発表会。今年は青山キャンパスで行いました！ 3年生全員と2年生の希望者の参加です。



探究学習発表会

1月20日の土曜授業日での全校探究発表会。学年・学級の枠を越えてゼミ形式での発表会。体育館での代表者による発表、ゼミごとの全員発表を行いました。



表 彰

中学生の「税についての作文」
 サンロッカーズ渋谷賞 伊藤 翠柑
 渋谷法人会会長賞 山岡 俊太
 渋谷納稅貯蓄組合連合会入選 斎藤 望
 渋谷納稅貯蓄組合連合会入選 梅田 和
 渋谷区明るい選挙啓発ポスターコンクール 入選 城島 咲紅
 第 22 回中学生創造ものづくり教育フェア in Tokyo 入選
 鈴木 いぶき 長谷川 紗香 我妻 咲綾 伊藤 翠柑
 第 16 回全国中学選抜 U15 レスリング選手権大会 フリースタイル 38kg級 準優勝 森 智輝

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
				元日		
4	5	6	7	8	9	10
			冬季休業日終	朝礼・安全指導	都立推薦出願	
11	12	13	14	15	16	17
	成人の日	生徒朝礼	職員会議		各種委員会	
18	19	20	21	22	23	24
しぶやニュー駅伝	避難訓練		職員会議	学校運営協議会		
25	26	27	28	29	30	31
	都立推薦入試	都立推薦入試	渋中研 (研究発表会)		都立一般出願	

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
	朝礼・安全指導	都立推薦発表			避難訓練 移動教室前健診 (2)	
8	9	10	11	12	13	14
	移動教室(2)始		建国記念の日 移動教室(2)終	振替休業日(2)	新入生保護者説明会	
15	16	17	18	19	20	21
	生徒朝礼		各種委員会	学校保健委員会		都立一般入試
22	23	24	25	26	27	28
	天皇誕生日	定期考查	定期考查	定期考查		